



健康メモ

令和元年 11.12 月号

やっつけようピロリ菌

ピロリ菌とは？

ピロリ菌は胃の表層を覆う粘液の中に住みつく菌で、感染したまま放置しておくとも慢性胃炎、胃・十二指腸潰瘍、胃がんなどが引き起こされることがあります。

感染経路は？

感染経路ははっきりとはわかってはいませんが、口から入れば感染することは間違いないようです。

- ・井戸水のような浄水されていない水を飲んだことがある
- ・ピロリ菌を保菌している大人が子供にご飯を咀嚼してご飯を食べさせていた。

このようなことがあればピロリ菌に感染している場合があります。

保菌者の唾液からはピロリ菌が含まれています。幼児期は胃酸の酸性度が低くピロリ菌に感染する確率が高くなります。

検査方法は？

- ・内視鏡（胃カメラ）：胃の粘膜をとって診断
- ・尿素呼気試験法：薬を服用し、服用前後の息に含まれる二酸化炭素の増加で診断
- ・便中抗原法：便を採取し、その中に含まれるピロリ菌の抗原の有無を調べる
- ・血清抗体法や尿抗体法：血液や尿を用いてピロリ菌に対する抗体をし調べる

胃炎や胃潰瘍がある人が、ピロリ菌検査を受ける場合は、健康保険が適用されます。

除菌方法は？

3種類の薬を、1日2回、7日間のみ続けます。これが1次除菌で、治療が終わってから1~2か月後にピロリ菌の検査を行い、感染していなければ治療終了となります。

ピロリ菌が残っていたら、2次除菌を行います。再び3種類の薬を7日間のみ続けます。1次治療と2次治療を合わせると、除菌の成功率は99%以上とされています。2次除菌までは保険適用です。

ピロリ菌と胃がんの関係

胃がんとピロリ菌は密接に関係しているといわれています。1994年にWHO（世界保健機関）は、ピロリ菌を「確実な発がん因子」と認定しました。これは、タバコやアスベストと同じ分類に入ります。早期胃がん治療後、ピロリ菌を除菌することで、除菌をしなかった患者さんと比較して3年以内の新しい胃がんの発生率は約3分の1というデータもあります。

また感染早期、できるだけ若いうちに除菌するほど、胃がんなどピロリ菌による病気を予防することができます。